



副鼻腔炎の おはなし

監修

藤田医科大学 名誉教授

医療法人尚豊会 みたき総合病院 耳鼻咽喉科 顧問

鈴木 賢二 先生

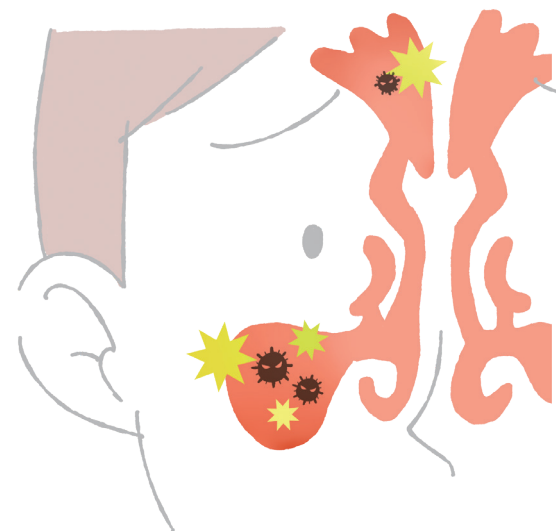
副鼻腔炎はどんな病気？

ウイルスや細菌、アレルギーなどの様々な原因により、鼻の奥にある副鼻腔という空洞に炎症が起こる病気です。鼻づまり、鼻汁(鼻みず)、せき、頭痛などの症状があります。これらの症状が1カ月以内に治る場合を急性副鼻腔炎、3カ月以上続く場合を慢性副鼻腔炎といいます。また、近年気管支喘息やアスピリン喘息を合併し、ねばねばの鼻汁と両鼻内の鼻茸そして治りにくく血液の中や鼻茸中に多くの好酸球が出現する好酸球性副鼻腔炎も問題となっています。



副鼻腔炎の原因は？

- ウイルスや細菌が副鼻腔に感染して起こります。
鼻からウイルスや細菌が入り、副鼻腔に侵入して炎症を起こすと副鼻腔炎になります。カビ(真菌といいます)の一種が感染して起こることもあります。
- アレルギー性鼻炎があると、それが原因で副鼻腔炎を起こすこともあります。
- むし歯が原因の場合などもあります。
- 好酸球性副鼻腔炎の原因は不明です。



副鼻腔はどこにあるの？

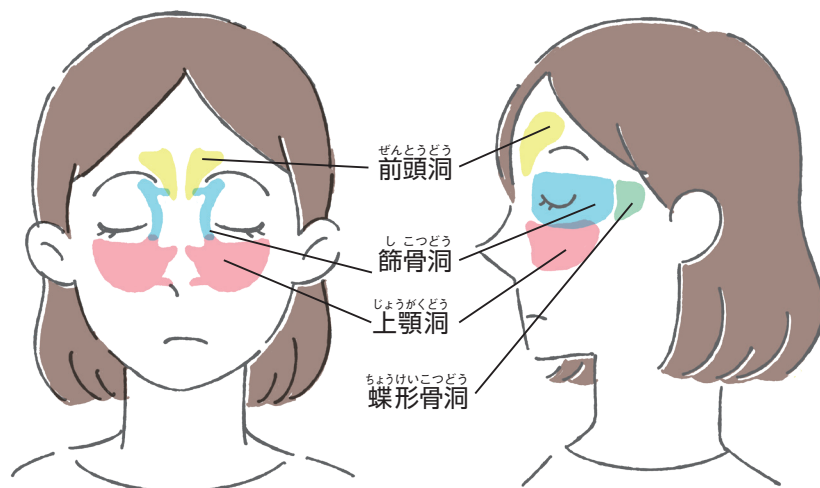
鼻の入口からのどに続く、空気の通る穴を鼻腔^{びくう}といいます。鼻腔のまわりの骨には左右それぞれ4つの空洞があって、これを副鼻腔といいます。

上顎洞^{じやうがくどう}は、眼の下空洞で、4つのうちで最も大きい空洞です。

篩骨洞^{しこつどう}は、両眼の間にある、いろいろな大きさの空洞の集まりです。

前頭洞^{ぜんとうどう}は、眼の上の空洞です。

蝶形骨洞^{ちやうけいこつどう}は、篩骨洞の奥の空洞です。



副鼻腔炎(蓄膿症)の症状は？

急性副鼻腔炎

かぜをひいた時に起こることが多く、鼻がつまる、^{うみ}膿のような粘り気のある鼻汁が出る、鼻汁がのどに下がる(後鼻漏^{こうびろう}と呼びます)などの症状があります。頭痛や、目の下や目と目の間などが痛くなったり、鼻血が出たり、熱が出ることもあります。

鼻汁は、最初のうちはやや水っぽい鼻汁ですが、次第に膿のように粘っこくなってきます。

慢性副鼻腔炎

急性副鼻腔炎が長引いたり、ウイルスや細菌の感染、アレルギー性鼻炎などを繰り返していると慢性化して慢性副鼻腔炎になります。急性副鼻腔炎の症状が3カ月以上にわたって続く場合を慢性副鼻腔炎といいます。

鼻水、鼻づまり、においがわからなくなる、などのほか、頭痛、頭が重いなどの症状があります。鼻汁は膿のような粘っこい鼻汁で、やはりのどに下がり、後鼻漏^{たん}と呼ばれます。気管支炎や気管支喘息を合併してせきや痰^{たん}などが出ることもあります。

鼻の粘膜にポリープ^{はなたけ}(鼻茸)ができることもあります。



症状が
3カ月以上
続くと
慢性副鼻腔炎です

好酸球性副鼻腔炎

膿性・粘性鼻汁や鼻閉が見られますが、特ににおいの障害が特徴です。合併症として、喘息、特にアスピリン喘息がしばしばみられるほか、好酸球性中耳炎を合併することもあります。

両側鼻内に多発性の鼻茸が生じ、CTでは両側の眼と眼の間に強い病変が生じています。

副鼻腔炎の治療はどうするの？

お薬による治療が主になります。

細菌をやっつける化膿止めのほか、炎症をおさえるお薬や、鼻汁をさらさらにして出しやすくするお薬、アレルギーをおさえるお薬などが使われます。炎症をおさえるために、化膿止めやステロイド薬の噴霧吸入も行われます。(ネブライザー療法と呼ばれています)

急性副鼻腔炎

かぜが原因のことが多いので、かぜと同じように、鼻水をおさえたり頭痛をやわらげるお薬が処方されます。

膿のような鼻汁が出る場合は細菌が感染している心配があるので、化膿止めを内服します。

耳鼻科では、副鼻腔にたまった鼻汁を外に出したり鼻の通りをよくするために鼻の洗浄をしたり、ネブライザー療法も行われます。



慢性副鼻腔炎

急性副鼻腔炎から慢性副鼻腔炎になるのを防ぐために、早めに十分な治療をすることが大切です。

慢性副鼻腔炎の治療には、マクロライド系という種類の化膿止めの少量長期投与（化膿止めとしてではなく免疫賦活剤として使用）が有効です。

そのほか、炎症をおさえるお薬、副鼻腔の洗浄、化膿止めやステロイド薬のネブライザー療法も行われます。

日常生活では、たんぱく質やビタミンを多く含む食事をとるのもよいとされています。

好酸球性副鼻腔炎

好酸球性副鼻腔炎では汚い鼻水が出る場合は抗菌薬を使用します。嗅覚障害や鼻茸が高度の場合はステロイドの内服を徐々に減量しながら行い、局所点鼻ステロイドも使用します。鼻副鼻腔 CT で篩骨洞を中心とする陰影が強い場合は手術的に全副鼻腔を単洞化し、患者さん自身で副鼻腔洗浄を続けていただきます。また最近、新しい機序で副鼻腔の炎症を抑える「生物学的製剤」も使用可能となってきました。

手術が必要なことも

慢性副鼻腔炎や好酸球性副鼻腔炎では、お薬で軽快しない場合、鼻の粘膜の腫れをとったり正常にするために手術が行われることがあります。

どんなことに注意したらいいの？

- かぜは早く治しましょう。
- 鼻は強くかんだり、すすったりすると中耳炎を起こすことがありますので注意しましょう。
- お薬は医師の指示通りに服用しましょう。自分の判断でやめたりしないことが大切です。
- 市販のスプレー式点鼻薬を使う時は耳鼻科の医師に相談しましょう。



こんな症状があったら 早めに耳鼻科を受診しましょう

- 鼻がつまる
- 鼻水が止まらない
- 膿のような粘っこい鼻汁が出る
- 鼻汁がのどに下がる
- 頬や額、目の下や目と目の間が痛い
- 頭が重い



病・医院名